

trivia ■皮膚科のトリビア■ (28)

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞きしたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

角層バリア障害で 上昇するバイオマーカー

第114回日本皮膚科学会総会から（平成27年5月30日）

バリア機能を定量的に表す指標を、テープストリッピングで得た角層内タンパクから検索した。角層中Galectin-7、HSP27は経表皮水分蒸散量と正の相関があり、角層内水分量と負の相関があった。Galectin-7は基底層に多く存在し、創傷皮膚で誘導され、HSP27は顆粒層に多く分布し、UVBや界面活性剤などの外的刺激で増加する。簡便に採取でき、ぶれの少ない結果が得られるため、角層バリアの状態把握に有用である。

「採取部位の炎症の有無や部位による差がありそうだが、同じ部位からの検体を治療前後で比較すれば、有用なマーカーになりそうだ」。

尋常でない疣贅と Emberger症候群

第114回日本皮膚科学会総会から（平成27年5月30日）

成人発症の多発性疣贅で肛門癌を併発。家族歴なし。肛門癌からはHPVのハイリスク型が検出された。骨髓異形成症候群の合併があり、転写因子であるGATA2遺伝子に変異を認めた。常染色体優生遺伝によるGATA2変異が原因の疾患をEmberger症候群と呼び、感音性難聴、細胞性免疫不全、骨

髄異形成症候群あるいは慢性骨髓性白血病などの主症状に加え、皮膚では反復性で多発する疣贅が特徴とされている。

「GATA2は造血幹細胞の増殖や維持に必須の転写因子で、GATA2異常症としては、単球減少と非結核性抗酸菌症を伴う免疫不全症として報告されたのが最初らしい。皮膚にも色々な症状を起こしてきそうなので、一応、覚えておこう」。

蕁麻疹様紅斑を伴う 痒疹を何と呼ぶか

第114回日本皮膚科学会総会から（平成27年5月30日）

26例の慢性に経過する痒疹患者で、臨床診断を検討した。結節性痒疹とした5例、多形慢性痒疹とした5例を除く16例が分類不能であった。16例中、多くの症例では軀幹および四肢の比較的広範囲に、蕁麻疹様紅斑を生じ、これらの症例ではTARC値が古典的2型より高く、ステロイド内服歴がある患者が多かった。蕁麻疹様紅斑の消褪したあとに苔癬様の局面を形成し、さらに丘疹紅皮症（太藤）に移行する例もあり、治療の影響もあり、分類が混沌としている。

「30年来の懸案で、なかなか結論がつかないようだ。内臓悪性腫瘍が見つければ、筋が通るのだが、決して多くはない。降圧薬、高脂血症治療薬などの薬剤の影響も否定できない。ただ、痒疹結節に至る理由が“搔破”であることは間違いないと感じている」。

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ケ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス：

<http://www.asai-hifuka.com>

BP180抗原C末端に対する自己抗体を持つ軽症の類天疱瘡

第114回日本皮膚科学会総会から (平成27年5月30日)

体幹・四肢に散在する弛緩性水疱とびらんを認める高齢男性。病理組織は表皮下水疱で、蛍光抗体直接法(DIF)では基底膜にIgG陽性。間接法(IIF)も基底膜に陽性で320倍。1M生食によるsplit skinでは、IgGが表皮側に陽性。抗BP180 NC16a抗体は陰性で、ウェスタンブロットでは180kdの17型コラーゲン(COL17) リコンビナントC末端領域に陽性であった。Nc16a抗体添加の培養表皮細胞は、COL17量が減少したが、C末端抗体では正常血清とほぼ同等で、COL17の減少度と臨床的重症度が関連している。

「高齢者の軽症あるいは限局性の水疱はときに経験する。最近ではBP180Nc16a抗体が陰性だと、水疱性類天疱瘡疑いで終わりにしてしまうことが多くなったが、以前のようにはちゃんと生検をして、DIFをして、正常皮膚を基質としたIIFをやらないとダメだと感じた。コマーシャルでできるといいのだが」。

ボツリヌス毒で褥瘡を予防する

第114回日本皮膚科学会総会から (平成27年5月31日)

ボツリヌス毒は、局所皮弁の血行を改善し、低酸素によるストレスを抑制する働き

があるとされている。マウスの背部を用いた褥瘡モデルで、ボツリヌス毒の局注は潰瘍形成を有意に抑制した。褥瘡の予防に有用かもしれない。

「コストも含めて現実的に使用されることはなさそうだが、面白い薬理作用である。多汗症と同じ薬効持続期間かどうかは、ヒトでの検証がまだとのことで、不明である」。

ペットボトル症候群と色素性痒疹

第31回日本臨床皮膚科医会総会から (平成27年6月20日)

ペットボトル症候群は、潜在性2型糖尿病患者が、糖質を多く含むソフトドリンクを多飲することによって生じる一過性のケトアシドーシスで、肥満を有する若年男性に好発する。偏食と不規則な食生活が基盤にあり、ビタミンB₁不足がケトアシドーシスを助長する。エネルギー代謝上はダイエットの際と同様、 β 酸化に依存した不飽和脂肪酸由来の過酸化脂質の増加があり、それが色素性痒疹の原因となる。したがって、抗酸化作用のあるミノサイクリンやDDSが有効である。

「栄養と皮膚病変の関連を判りやすく説明してもらった。検査で重要なのは、血糖、HbA1cのほか、尿中ケトン体陽性、浸透圧利尿に伴う血球数の増加、総蛋白の上昇、低Na血症を確認すること」。